

学力試験2 各教科の出題意図

〈 英 語 科 〉

語彙・語法・文法・作文・読解など、いくつかの分野にわたる総合的な英語力を測ります。中学校で通常学習する範囲を超えるような語彙や文法などの知識は必要ありません。なお、リスニング・テストはありません。

問題は、文章内容の理解を問うものや語句について問うものなどさまざまですが、単に語彙や文法事項の記憶力ではなく、全体の内容とのつながりの中で、個々の文の表す意味を読み取る力が試されます。また、作文問題では、状況や気持ちを自然な英語で的確に表現する力が必要です。いずれにしても英語を道具として使いつつ学んでいく、積極的な意欲を求めています。

英文の量が比較的多いので、すばやく的確に文章の大意を読み取る力が鍵になるでしょう。一語一語を和訳していくというより、文中で分からない単語に出会ったら、文脈の中でその意味を想像し、推理しながら読みこなしてください。受験生の皆さんには、副教材などのさまざまな教材を活用するなど工夫をして、普段からまとまった量の文章を読み、その内容を英語のまま理解していく学習の積み重ねをおすすめします。

〈 国 語 科 〉

問題作成の基本方針は、与えられた文章をその文章の表現そのものに即して読む力がどれだけあるのかを知るための問題をつくるということです。言い換えれば、文章とともに考える姿勢と力が受験生諸君に問われているということです。あくまでも、読む力、考える力が知りたいわけですから、それとは直接結びつかないような、文学史や古典の知識、文法についての細かな知識などを問うことは避けたいと考えています。

したがって、受験に際して特別な準備をする必要はないと思います。その代わり、日頃から、誠実に読み、考えるという態度を身につけておいてほしいと思います。よりわかりやすく言えば、文章を読んだり、話を聞いたりするときに、よくわからないのにわかったふりをしたり、あるいは、自分勝手な読み方や聞き方をしたりすることに満足することがないように心がけておくことが大切です。

〈 数 学 科 〉

1. 新しい記号や概念に対しての処理能力を問います。
2. 中学校で培った知識を断片的にではなく、総合的に理解できているかを問います。
3. 既知の知識を駆使して、あるテーマを追求していく能力を問います。
4. 取り上げたテーマが、数学的問題解決法にいかにも有効であるかを問います。
5. 入試という厳しさの中にも数学の楽しさを実感してもらいたいと思います。

したがって、日頃から、目にする定理や推論に対して当たり前だと思わずに、「どうして導かれるのだろうか?」「何故だろう?」という疑問を抱いて欲しいと思います。

そして、その疑問を追求していく態度が必要です。未知の事柄に対しても、恐れずに、チャレンジしてみてください。本校の入試問題は、一般的な高校の入試問題と異なるので、過去の問題を一読しておくとも良いでしょう。